

# 17年セ試志願者数は、2年連続減の 56万9,974人(前年比3.0%減)!

現役3年連続減少だが、現役志願率は過去最高の35.1%

旺文社 教育情報センター

平成16年11月5日

大学入試センターは16年11月4日、17年1月15・16日に実施される17年センター試験の志願者数(速報値)を発表した。志願者数は56万9,974人で、16年の確定値より1万7,376人(3.0%)減となった。

内訳等は下記のとおりだが、最終確定は重複出願等の確認後、12月上旬に発表予定。

**志願者数** 569,974人(587,350人; 17,376人減、3.0%減)

<内 訳>

高校等卒業見込者 421,836人(426,839人; 5,003人減、1.2%減)  
高校等卒業者 141,558人(153,622人; 12,064人減、7.9%減)  
大検・その他 6,580人(6,889人; 309人減、4.5%減)  
現役志願率 35.1%(34.6%; 0.5ポイント増)  
志願倍率 3.7倍(3.9倍; 0.2ポイント減)

男女別

男 337,861人<59.3%>(350,416人<59.7%>)  
女 232,113人<40.7%>(236,934人<40.3%>)

成績開示希望別

希望する者 388,979人<68.2%>(377,283人<64.2%>)  
希望しない者 180,995人<31.8%>(210,067人<35.8%>)

注1) ( )内は16年実施の確定値及び16年対比の増減。

注2) < >内は構成比率。

注3) 志願倍率はセンター試験利用大学(短大除く)の入学定員に対する倍率。

注4) 確定志願者数は例年、重複出願等を差し引き数十人減となる。

## 【特記】

志願者数の推移(グラフ1参照)を見ると、15年の60万2,887人(確定値。以下、16年も同)をピークに、2年連続の減少となっている。

高卒者数が減少する中、高校等卒業見込者(現役)の志願者数も16年より5,003人(1.2%)減り、3年連続の減少。

現役志願者の減少率が16年より1.3ポイント下回り、減少数が5,003人(16年は1万1,165人)に留まった背景としては、私立大のセンター試験参加増(21大学75学部増の408大学1,078学部。センター試験利用定員約1,500人増の3万3,400人)と短大の参加増(22短大増の119短大。定員約600人増の約3,000人)に伴う現役女子を中心とした少数科目受験者層の拡大等があげられよう。

こうしたことから、現役志願率は16年を0.5ポイント上回り、過去最高の35.1%に達している(グラフ1参照)。

一方、高校等卒業生(浪人)は16年より1万2,064人(7.9%)も一気に減り、2年連続の減少である。16年の減少率を5.3ポイントも上回り、8%近い減少率となったのは、受験生数の減少に加え、国立大を中心とした16年のセンター試験「5(6)教科7科目」化や16年センター試験の平均点アップ、先行き不透明な経済情勢など、浪人を敬遠する傾向が一段と強まったことが原因と見られる。

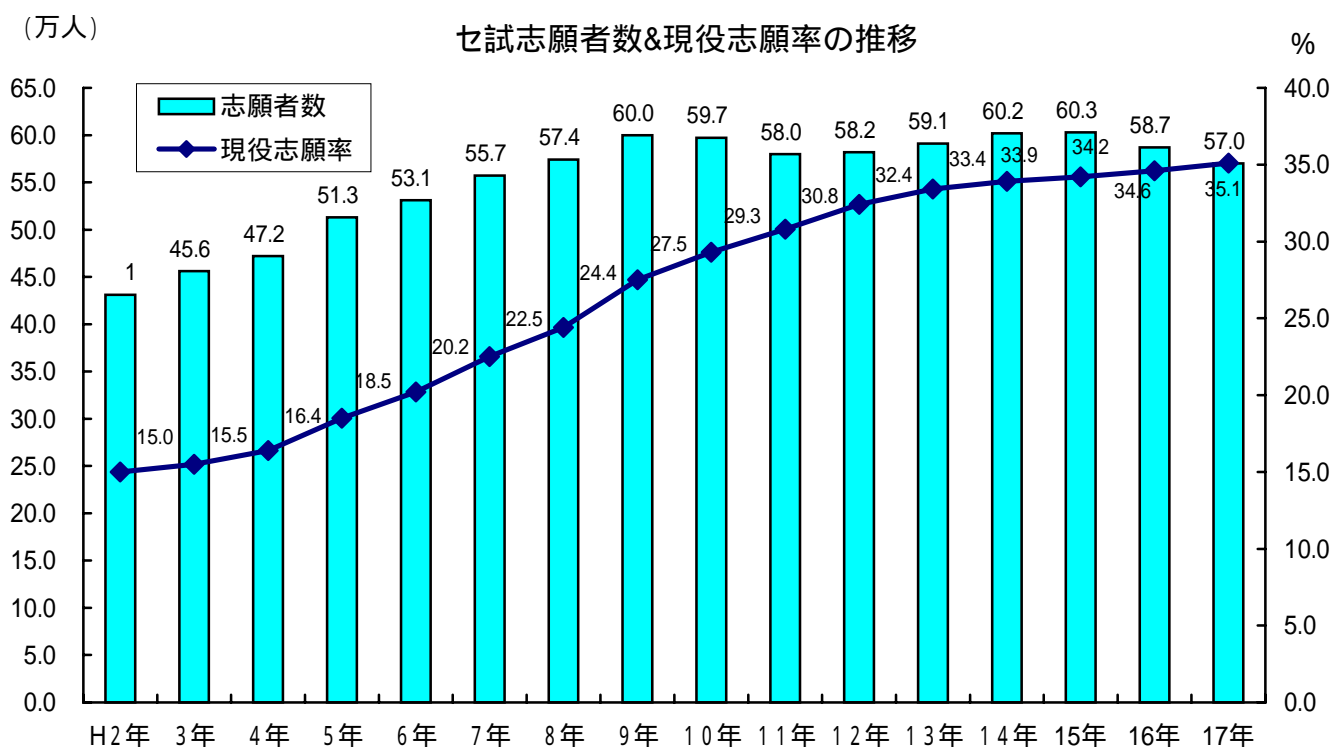
14年より実施されている試験成績の本人開示(事後開示)については、16年は開示希望者、開示を希望しない者ともに減ったが、17年は、開示希望者が前年より1万1,696人(3.1%)増えている。

16年から、大検を経由しなくても、各大学の個別審査で入学資格が認められれば出願資格が得られるようになった。この措置でのセンター試験出願者は104人で16年の2倍近くに増えたが、大検合格者の出願は5,843人で、16年より402人(6.4%)減った。

17年の18歳人口は、16年より4万5,000人(3.2%)の減少、高卒者数は3万9,000人(3.2%)の減少がそれぞれ見込まれている。また、大学受験者数(実数)も16年より3万1,000人(4.3%)減の69万1,000人、短大は4,000人(3.8%)減の10万2,000人程度とみられる。

\* 次葉に「センター試験志願者数&現役志願率の推移」(グラフ1)と、「センター試験を利用する私立大&短大;大学・学部、短大数の推移」(グラフ2)を掲載。

(グラフ 1)



(グラフ 2)

